

中野秋香

あきのか

國文學者

歌人

天保十一年九月二十九日駿河國生

れ、明治四十三年一月二十九日歿（八四—一九〇〇）。號ふしのやのりある

し秋香、不盡之屋、不盡通屋、不盡通舎、乾坤蘆、今かくれが、松下

亭主人、松下叟、松下庵主、槐陰書屋、源朝臣秋香等。松本直秀私塾

と和學を、駿府明新館の漢學を修業。維新後内務省・文部省出仕、東

京高等女學校教諭、第一高等中學校教授等歴任。明治二十年宮内省御

歌所寄人となる。新體詩人として知られた。教育家中村春一の父。

著書 『おんな女子書簡文梯』全二冊（編、明治十五年十月不）、書屋藏粹）、

『日用文鑑』全二冊（小中野清矩共編、上、下、明治十七年二月不）一

書屋藏粹、福田仙藏出版）、『新説歌がたり』（明治二十四年十一月

六日福田書店）、『新體詩歌集』（外山正一・上田萬年・坂正臣合著、

明治二十八年九月）二十五日大日本圖書株式會社）、『皇國文法釋義』

（明治二十一年七月）二十日大日本圖書株式會社）、『白河樂翁公』（内

應『白河樂翁公』明治二十一年十一月八日博文館『少年讀本』）、『新

體詩歌存在』（高橋龍雄・宮本壽・栗島山之助補助、明治二十一年十

一月）二十日博文館）、『中學者訓めがらひ』（内題『中學者訓假

字使』明治二十一年十一月）二十日文榮堂）、『新新書簡文法式』（明治

二十二年十月七日新書全藏版、前川源七郎刊）、『校吉野拾遺詳解』

（明治二十二年十一月五日博文館）、『女子女子消息文の手ほどき』（小野鶯

堂書、明治二十六年一月五日前川文榮堂）、『新編手紙』（同、明治

二十六年九月七日）前川文榮堂）、『秋香歌がた

り』（明治四十年六月十五日五重樓）、『不盡通

屋遺稿』（内題『不盡之屋遺稿』中野春一編、明



治四十四年一月二十五日前川文藝會(等)等。

